

夏のき

令和8年6月10日発行 校長 久保田 勲

釜石の軌跡に学ぶ～自助・共助の力を育む～

5月下旬には30度を超える暑さとなり、熱中症への心配が高まっています。また、突然の大雨や雷など、これまでにはなかったような気象状況も増えてきました。

さらに、地震や台風などの自然災害は、いつ、どこで起こるかわかりません。だからこそ、災害時に「どう行動するか」を日頃から考え、備えておくことが大切です。

東日本大震災「釜石の軌跡」

東日本大震災の際、岩手県釜石市では、多くの小中学生が自ら判断し、素早く避難したことで、多くの命が守られました。この出来事は、「釜石の軌跡」と呼ばれています。子どもたちは、学校で繰り返し学んできたことを生かし、「自分の命は自分で守る」という意識をもって行動（自助）しました。また、自分だけでなく、周りの人にも声をかけながら避難（共助）したそうです。そこには、「言われたから動く」のではなく、「自分で考え、判断し、行動する力」がありました。



▲小中連携引き渡し訓練の様子

「自助」と「共助」の力

災害時に大切なのは、「自助」と「共助」の力です。「**自助**」とは、自分の命を自分で守ろうとすることです。「**共助**」とは、地域や仲間と助け合い、支え合うことです。一人一人が主体的に行動すること、そして周囲の人と協力することが、被害を最小限に食い止めることにつながります。こうした力は、日頃の訓練や学校生活の中で育まれていくものと考えています。



▲シェイクアウトの基本

本校の防災教育の取組

そこで、本校では、計画的に避難訓練や防災教育を行っています。今年度は、特に、地震発生時に「まず低く、頭を守り、動かない」という安全行動を短時間でを行う「シェイクアウト訓練」を日常的に実施しています。また、放

送や周囲の状況をよく聞き、自分で判断して行動する力を育てるため、「予告なしの訓練」も計画的に実施しています。訓練は、“形だけ”で行うものではありません。「**なぜこの行動をするのか**」を考えなが



▲地震発生時の対応

ら取り組むことで、**自分の命を守る力、そして仲間と“まるかっ**
て” 助け合う力が育っていきます。ぜひ家庭でも、災害が起きた時に「どこへ避難するか」「家族と連絡が取れない時はどうするか」について、話し合ってみてください。今後も、過日実施した引き渡し訓練を一例として、学校・家庭・地域がつながりながら、子どもたちの自助、共助の力を育てていきたいと思ひます。



▲学校 HP

学校 HP の紹介 日々の教育活動や学校情報を発信していきます。学校を知る手段としチェックしてください。